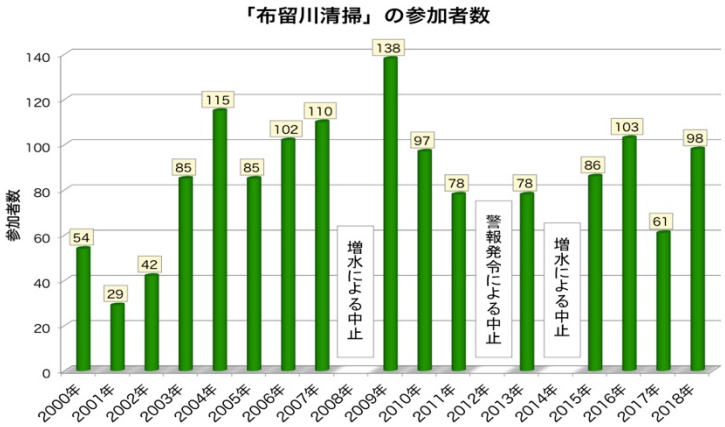
布留川をきれいにしよう / 布留川清掃

環境市民ネットワーク天理は、2000 年（平成 12 年）6 月 20 日、「第 1 回 布留川をきれいにしよう ～川の大そうじ クリーン作戦～」を開始し（右写真）、翌年から毎年、環境月間の 6 月に天理市街地を流れる布留川で行政・企業・市民の協働による清掃作業を始めることになった。川を見れば、その地域の住民・行政の環境意識を推し量ることができるという考え方、すなわち「川は地域を映す心の鏡」をコンセプトに、川の清掃作業を中心に活動を始めることになった。川をきれいにすることによって天理市民の環境意識の向上を高めることができる、あるいは、結果的に天理市民の心を更に清らかにできるという考えから、継続活動として位置づけた。その結果、参加者の「協働」意識は高まり、さまざまな企業からの参加も増えてきた。

第 1 回「布留川清掃」（2000 年 6 月 20 日）のようす。
布留川南流域で、川の中に入って清掃する子どもたち。

2000 年（第 1 回目、上写真）から 2018 年（第 19 回目）までに実施した「布留川清掃」の参加者数の年変化を下図に示す。この図に示したように、2008、2012、2014 年の 3 回は、布留川の増水と警報の発令によって中止にした。天理市を含むさまざまな機関や組織、団体、企業などが参加する企画であることから、安全を前提に実施してきた。ただ、主催団体は最初から「ネットワーク天理」が担当してきたが、「天理市環境連絡協議会」が発足して以降は、2016 年から現在まで「協議会」が主催・主管となって実施している。「ネットワーク天理」も、共催団体として継続して実施している。



「布留川清掃」に参加した人数の年変化（2000～2018 年）。

参加者の中には、会社関係者の家族がまとまって参加することもある。たとえば、2003 年 6 月 22 日の第 4 回「布留川清掃」からは、シャープ株式会社の社員とその家族が布留川清掃に参加するようになった（次頁写真）。それは、私たちのホームページを見た大阪本社の環境関係部署の担当者から、社員と家族 40 人ほどを参加させたい旨のメールが届いたことが契機となった。そのため、参加者は一気に増え、前年の 2 倍ほどまで一気に増えた。その後も毎年、シャープ社員と家族の人たちは欠かさず参加し、「ネットワーク天理」が実施する「天理環境フォーラム」（後述）など、さまざまな活動にも多くの社員の人たちは参加している。感謝に堪えない思いである。その後は、天理市職員のほか、さまざまな企業や団体関係者も参加する市民挙げてのイベントになった。

第４回「布留川清掃」に参加した人たち（2003 年６月 22 日）。

第７回「布留川清掃」(2006 年６月 17 日)。

第７回「布留川清掃」(2006 年６月 17 日)。

第 10 回「布留川清掃」(2009 年６月 21 日)。

第 12 回「布留川清掃」(2011 年６月５日)。

第 16 回「布留川清掃」(2015 年６月 14 日)。

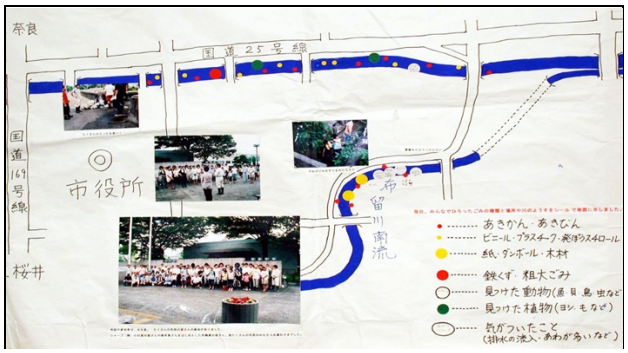
第 19 回「布留川清掃」(2018 年５月 20 日)。

第 20 回「布留川清掃」(2019 年５月 19 日)。

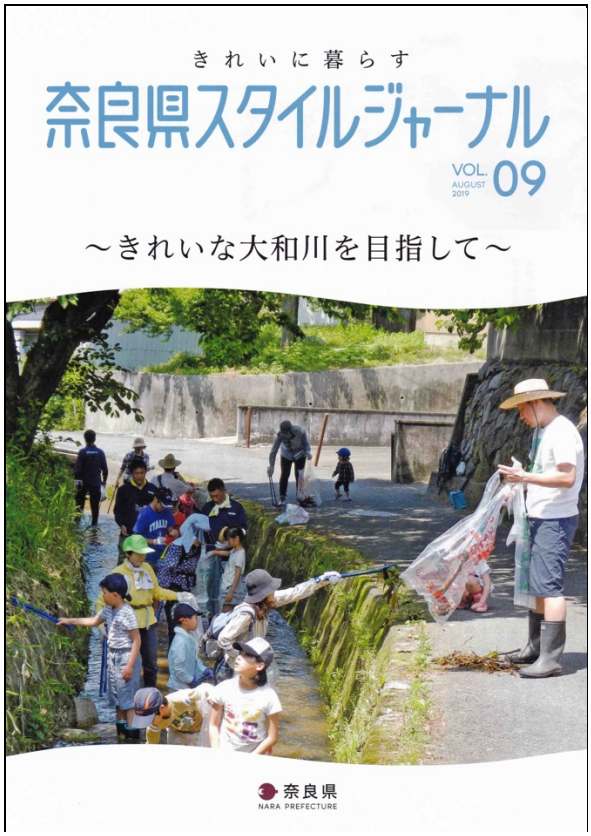
「布留川清掃」は、市民の協働や環境への意識を高めるだけでなく、生物の生息環境にとっても大きな効果をもたらした。ゲンジボタル幼虫の餌となるカワニナだけでなく、水質の浄化と安定の機能を果たすマシジミのほか、サワガニ、スジエビなど、渓流性の水生生物も増加した（下写真３枚）。

天理市庁舎近くの布留川南流で確認された巻貝のカワニナと淡水性二枚貝のマシジミ（左）、サワガニ（中）、スジエビ（右）。

また、清掃活動に参加人たちが、清掃の傍らで発見したものを記録するため、模造紙に描いた布留川図面に発見したものを記した（下図および下写真）。とくに、淡水性魚介類や水域で飛び交うトンボ類などの生き物確認のほか、水中に捨てられた金属類や空き缶、傘、陶磁器類、また水中に浮かぶペットボトルなど、日常生活で使われ捨てられていた日用品の確認場所も、確認した人たちは模造紙にカラーの丸シールで表示した。



左は清掃後に「川の生きもの」や「ごみ」の種類を記録した模造紙の地図（2003 年 6 月 22 日）、右は記録のようす（2010 年 6 月 20 日）。



奈良県広報誌『奈良県スタイルジャーナル』（2019 年８月）に、布留川清掃のようすが３頁にわたって紹介された。

川守り20年 ホタル乱舞

2018年5月10日 朝日新聞

天理・布留川 NPOが清掃活動

天理市の市街地を流れ、市民になじみ深い布留川で年に1回、市内のNPO法人「環境市民ネットワーク天理」が中心になり、清掃活動をしている。20年近く続け、もともといたホタルが増え、乱舞するようになったそうだ。今年から実施日を5月の第3日曜（今年は20日）とし、広く参加を呼びかけている。

環境ネット天理は行政、事業者と連携して市内と周辺の環境保全に取り組もうと1997年に発足。「川は地域を映す心の鏡。川掃除は心をきれいにする」と2000年から環境月間の6月に、市役所付近の布留川の掃除を始めた。

市民らに協力を呼びかけ、03年以降、毎年61～138人が参加している。川掃除をする区間の水深は10～40㌢。参加者は長靴を履くなどして川に入り、空き缶やペットボトル、紙おむつ、自転車などを拾い集めている。おかげでごみの量は減ってきているようだ。

環境ネット天理の理事長で天理大おやさと研究所教授の佐藤孝則さん（66）は「もともといたホタルや幼虫のエサのカワニナを見る機会が増え、10年ほど前からは乱舞が見られるようになった」と話す。

市内の下水道普及率がここ15年で約20％増えて98・9％（16年度）になり、汚水が減ったことなどが要因とみられるが、「私たちの活動も水質改善やホタルの増加に貢献したと思っている」と佐藤さん。

6月に実施してきたが、梅雨と重なり、増水のため中止した年もあった。このため、16年から5月に前倒しし、今年から第3日曜に実施することを決めた。

布留川でホタル観察会も開いている。佐藤さんは「今後も続け、布留川に大人も子どもも楽しめる親水域をつくりたい」と話す。

20日の清掃活動は午前9時から1時間半の予定。市役所玄関前集合。小学生以上（小学生は保護者同伴）に限り、長靴や帽子、水筒など持参。雨天中止。問い合わせは環境ネット天理事務局（090・3487・9446）へ。（石川和彦）

今年で19年目になる布留川の清掃活動＝2016年5月、天理市、環境市民ネットワーク天理提供

「大人も子どもも楽しめる親水域に」

布留川清掃活動とホタル再生の記事「朝日新聞」（2018 年 5 月 10 日付）。